世界へ発信！

北の縄文だより vol.3

縄文 JOMON JAPAN

～みんなの知らない「JOMON　World」～

社会教育課社会教育・文化財グループ（☎ 74-3010）

時間のものさし　～縄文土器の世界～

入江貝塚は今からおよそ５千年前から４千年前、高砂貝塚は４千年前と３千年前の遺跡です。何千年も前のことなのに、どうして年代がわかるのでしょうか。

その答えは「縄文土器」にあります。縄文土器にはいろいろな形や模様があって、作られた場所や時期によって少しずつ違いがあります。

入江・高砂貝塚で見つかった縄文土器を、古い順番に並べていくと、どの時期に人が住んでいたのかがわかります。つまり、縄文土器は「時間のものさし」にもなっているのです。

古い ←→ 新しい

５千年前の土器

４千５百年前の土器

４千年前の土器

縄文土器の発明

「土器」は、日本では縄文時代から使われ始めた道具です。粘土をこねて形を作り、乾燥させて、焼き上げました。土器が発明されたことで、食べられるものが増えていったと考えられます。

例えば、食材を「煮る」ことで柔らかく、食べやすくなったり、木の実や山菜を土器で水にさらして、強いアクを抜くこともできます。縄文土器の登場によって、縄文人の食生活は豊かで安定したものになっていきました。

縄文土器は定住の証

縄文土器はそれまでの食生活を変えましたが、重くて壊れやすく、持ち運びに不便です。このことから、縄文土器の発見は、定住生活の一つの証拠となります。

世界遺産となった縄文遺跡群の１つ、青森県大平山元遺跡では、今から１万５千年前に作られた土器が見つかっています。これは世界でも古いグループに入り、このころから定住生活が始まったと考えられます。

形と模様の不思議

土器は物を入れる器なので、口が開いて底が閉じていれば、十分に使えるはずです。でも、縄文土器の形はバケツのようなシンプルな形だったり、小さな底から上にふくらんで、また、すぼまって口が大きく開く形だったりと、さまざまです。口の部分に突起をつけたものもあります。

また、土器の表面には縄を転がしたり、粘土ヒモを貼り付けたり、棒で描いたり、実にいろいろな種類の模様がつけられています。こうした形や模様は、縄文土器特有のもので、現代の私たちから見ると、必要のないもの、と感じてしまうこともあります。

しかし、縄文人にとって、縄文土器の模様は特別なものでした。縄文土器に造詣が深かった芸術家の岡本太郎は、著書『日本の伝統』の中で、「縄文時代はあらゆる神秘や超自然のドラマが豊かに生活に入り込んでおり、それが縄文土器の模様にも表れている」、と語っています。

縄文人は実用性を追求することよりも、縄文土器の模様を通して、自分たちの世界観を描くことに力を注いだのかもしれません。